

途上国に目を向けよう ～見えないつながりを見つけて～



東京都あきる野市立東秋留小学校

教諭 横谷 秀幸

I 単元について

第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

授業実践 10月8日(木)
～10月26日(月)
授業者 横谷 秀幸
対象 第6学年2組(36名)

1 単元名

「途上国に目を向けよう ～見えないつながりを見つけて～」

2 単元の目標

○途上国の現状に目を向け、様々な課題が見えないところで繋がっていることに気付く。

○途上国の人々や社会に対する理解を深め、自分たちの課題に基づいて、考えをまとめる。

3 単元の評価規準

【関心・意欲・態度】

○途上国の暮らしに関心をもち、進んで考えたり、調べたりすることができたか。

【思考・判断】

○途上国における課題が、見えない所でどのように繋がっているのか、考えることができたか。

【技能・表現】

○途上国の課題とそのつながりを発見し、考えを発表したり、まとめたりすることができたか。

【知識・理解】

○途上国に存在する課題にはどんなものがあるか、理解することができたか。

4 児童の実態

国際理解教育を行うにあたり、事前に調べてみたところ、本学級には海外の渡航歴がある児童は2名しかおらず、海外に対する理解は薄いことが予想される。しかし、その一方で外国籍の児童がいたり、父親が外国籍、または兄弟が外国籍の方と結婚していたりするなど、海外在住経験のある方と日常的に接する機会が多い児童も数名いる。

また、日常生活や日頃の学習活動を見てみると、起きた出来事や聞いた話を表面的に捉えてしまい、自分たちでそれ以上のことを考えようとしにくい傾向が見られる児童が多い。そのため、本単元では、自分たちが知った情報が他の事とどのように関わっているか、つながっているかを自分たちで考えていくことで物事の本質を捉える目も養えていければと考えている。

5 教材について

今回の単元ではラオス人民民主共和国を取り上げ、国際理解教育を進める。

本学級の担任である授業者は、独立行政法人国際協力機構(JICA)が主催する平成21年度の教師海外研修に参加した。その研修の中で途上国の現状を学んだのだが、そこで授業者自身がもっていた「援助＝金銭援助」という概念を崩され、国際協力の在り方を見直すきっかけとなった。

本単元では児童にもその発見をさせたいと思い、この教材を選んだ。児童にも国際協力の捉え方に大きな変化が与え、実際の行動に移してくれることを、心より願っている。

6 学習指導計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	出させたいキーワード
1	1・2	ラオスの町と社会 ・1枚の写真から課題をつかみ、社会の様子を知る。 ・課題の間に見られるつながりを探す。 ・キーワードカードを書く。	・教師の考えを入れず現地で見たり聞いたりした事実のみを伝える。 ・プロジェクターを使い、電子紙芝居式に説明を進める。 ・各観点を説明した時点で、毎回ふり返しシートを記入し、キーワードカードを書かせる。	・国際化 ・機械化 ・非衛生的 ・交通事情 ・海外企業 ・観光地 ・ゴミ ・物乞い ・商業化 ・食料が豊富
	3	ラオスの子どもと教育 ・ラオスの子どもたちがやっている遊びを体験したり、動画を見たりしながら子どもたちの様子を知る。 ・ラオスの教育が抱える課題を知る。 ・キーワードカードを書く。	・教師の考えを入れず現地で見たり聞いたりした事実のみを伝える。 ・机を後ろに下げ、活動できるスペースを確保すると共に、筆箱と前時のワークシートを準備させる。 ・各観点を説明した時点で、毎回ふり返しシートを記入し、キーワードカードを書かせる。	・教材不足 ・教師不足 ・教室不足 ・施設不備 ・貧しさ ・将来の夢 ・音楽 ・海外 ・伝統文化 ・NGO
	4	ラオスの農村とその暮らし ・1枚の写真からラオスの農村の暮らしを知る。 ・ラオスの産業にふれると共に、その生活が抱える課題について考える。 ・キーワードカードを書く。	・教師の考えを入れず現地で見たり聞いたりした事実のみを伝える。 ・農村の暮らしを伝えるだけでなく、都市との格差に気付かせる。 ・各観点を説明した時点で、毎回ふり返しシートを記入し、キーワードカードを書かせる。	・医療 ・農業 ・養殖 ・バナナ ・稲作 ・家族 ・貧しさ ・兄弟 ・仕事
2	5・6	ラオスの社会を見つめよう ・前時までに書いたキーワードカードを使い、社会のつながりを見つめる。 ・授業で学んだことに加え、自分たちの考えや今後の改善策などを書き込む。 ・発表原稿を書く。	・半分サイズの模造紙にキーワードカードを貼らせ、そのつながりや気付いたことを用紙に書き込ませる。 ・つながりを文章で記入する。また、文末表現に注意しながら、今後の改善策などを書かせる。	
3	7・8	発表し、広げよう ・社会構造図を元にグループ発表をし、その中で選ばれた児童が全体発表する。 ・更に調べたい事や自分たちができることを考える。	・友だちの発表を聞き、更に知りたいこと、調べてみたいことや自分たちにも出来ることを出し合い、意見をまとめる。	

Ⅱ 授業実践

1 第1次：知る段階① (1・2／8)

(1) ねらい

- ラオスの社会の現状を知り、その裏に潜む課題や、課題同士のつながりに目を向ける。
- 各課題の中で知ったこと、気付いたことを文章やキーワードで表現する。

(2) 指導の工夫

- 1枚の町の写真からいろいろなラオスの社会事情が見えるようにすることで、課題を探そうとする意欲を高める。
- 電子紙芝居形式にすることで社会の様子を短い時間で分かりやすく説明すると共に、ねらった課題を提示し、課題を見つけやすくする。

(3) 展開

○主な学習活動	○教師の指導と支援	○評価 ・ 評価方法
○町の写真を見て、ラオスの町の様子をを知る。	○パソコンとプロジェクターを使用し、町の概観を捉えさせる。	
写真を見て、気付いたこと、不思議なことを探そう		
○写真を見て、気付いたことや、不思議に思ったことを書き込む。 ・ 自転車を売っている。 ・ 同じ絵のポスターがある。 ・ 英語の看板がたくさんある。 ○グループで話し合いながら写真に映し出されているものは何かを予想する。	○ワークシートを配布し、自由に写真に疑問点などを書き込ませる。 ○予想できない場合には赤で「？」を書き込ませる。	
○気付いたことを発表する。 ○気付いたこと、心に残ったこと、つながりをワークシートに記入する。	○発表されたことをピックアップし、それにあった電子紙芝居を見せる。 ○黒板に見出しを貼り、ポイントを板書していく。 ○各観点が終わる度にワークシートを記入させる。	○課題同士のつながりに気付くことができたか【思】 ・ ワークシート
○ふり返りをし、キーワードカードを書く。	○ワークシートにふり返り感想を書き、特に印象に残ったことを3つキーワードカードに記入する。	○気付いた課題をキーワード化することができたか【技】

(4) 実践記録①



導 入 ラオス（ルアンパバン）の町並の写真

展開① まず、ラオスの現状を探るため、写真の中から気にかかることを記入させた。

児童の声

- ・自転車は売っているのかな？
- ・看板がたくさんある。 ・何のお店かな？
- ・バイクが置いてある



↑
←ワークシート記入中

気になる所を示す場面



展開② この写真に隠された5つのラオスの現状に関する電子紙芝居を鑑賞する。

ツアー会社と食料品店

A ラオスの町と店



数台のバイク

B ラオスの交通事情



携帯電話の看板

C ラオスと機械化



托鉢の看板

D ラオスと仏教



レンタルサイクルと
外国人

E ラオスの観光化



	概 要	つかませたい課題
A ラオスの町と店	様々な町の様子を紹介。中でもラオスの店の写真を見せる。生肉を外で売っている様子なども見せる。	食料が豊富、不衛生 都市化、果物が多い
B ラオスの交通事情	自動車やバイクが増えている現状を見せ、更に日本車の多さと交通マナーの悪さに気付かせる。	バイク、自動車が多い 交通渋滞・ルール 日本企業
C ラオスと機械化	町の中にあふれる携帯電話会社の看板から、機械製品の流行に気付かせ、偽物の存在にも目を向ける。	携帯電話、日本企業 偽ブランド、日本製品
D ラオスと仏教	托鉢の動画から、仏教国であることに気付き、更に観光客と物乞いの写真から商業性と貧困に目を向けさせる。	観光者、仏教の教え、 物乞い、商業化
E ラオスの観光化	観光ガイドの看板や日本食レストランの写真からその観光化を知り、ゴミの増加にも気付かせる。	外国人、日本食、ゴミ増加 海外の影響

2 第1次：知る段階②（3／8）

（1）ねらい

- ラオスの教育の現状を知り、その裏に潜む課題や、課題同士のつながりに目を向ける。
- 知ったこと、気付いたことを文章やキーワードで表現する。

（2）指導の工夫

- ラオスの遊びを取り入れたり、学校の授業の様子を動画で見せたりすることで、意欲を高める。
- ラオスの教員や青年海外協力隊の人たちの言葉を吹き出しなどで表すことで、人々の思いを直に伝え、思いに共感できるよう工夫した。

（3）展開

○主な学習活動	○教師の指導と支援	○評価 ・ 評価方法
○1枚の写真を見せ、何の写真か考える。 ・お店 ・馬小屋 ・倉庫 ○学校の写真であることを知る。	○農村部の写真を見せ、何の写真か考えさせた後、学校であることを知らせる。 ○めあてを知らせる。	
ラオスの子どもと教育について考えよう		
○CCC（子ども文化センター）の写真や動画を見る。 ○ラオスの遊びを体験する。 ○ラオスの子ども達の夢や考えを知る。 ・農家 ・店をつぐ ○振り返りをする。	○子どもの様子や遊び方を伝える。 ○NGOの存在を知る。 ○机を下げさせる。 ○どんな夢をもっているか予想させる。 ○子どもの様子を知って感じたことをワークシートに記入する。	○ラオスの子ども達の夢を進んで考えることができたか。【関】 ・ワークシート
○ラオスでの授業の動画や写真を見る。 ○教育省での話を紹介する。 ○教育関係者達の願いを予想する。 ・学校を増やしたい ・教室や教材が欲しい ○振り返りをする。	○ラオスの学校や授業の様子を見せ、そこで働く教師の思いを考えさせる。 ○教育環境の悪さに気付かせる。 ○学校の様子を知って感じたことをワークシートに記入する。	○教育課題に気付くことができたか。【思】 ・ワークシート
○ふり返しをし、キーワードカードを書く。	○ワークシートにふり返し感想を書き、特に印象に残ったことを3つキーワードカードに記入する。	○気付いた課題をキーワード化することができたか【技】

(4) 実践記録②

導 入

ラオスの学校の写真を見て、
何の写真か考える。

児童の声

- ・倉庫 ・民家 ・学校
- ・物干し ・鉄棒 ・バレーコート

答 え

学校とサッカーゴール



展開① CCC(子ども文化センター)の写真と動画を見て子どもの様子を知る。また、ラオスの遊びを経験する。



遊びの様子写真



日本の遊び(にらめっこ)紹介写真



遊びを楽しむ児童と担任

☆ラオスの少年たち(13～20歳)の夢を考える。

児童の声

- ・農家 ・家のあとをつぐ ・先生

答 え

- ・教材が欲しい ・貿易関係 ・観光会社

⇒海外への夢をもっていることに気付く。



展開② 小学校での授業の様子や図書館、青年海外協力隊の幼稚園教諭の話から、教育の現状を知る。



立ったまま授業を受ける子



教科「身の回りの生活」



理科の授業をする私の写真



ラオスの教員との話し合い



勉強する中学校教師



日本の本を読む子供たち



ラオスの教育省の方の話



青年海外協力隊員の話



授業の様子

☆ラオスの教育関係者と青年海外協力隊員の願いを考える。

	ラオスの教育関係者	青年海外協力隊員
児童の考え	・勉強したい。 ・教室、教材が欲しい ・子供にもっと教えてあげたい	・教材の説明書でもあれば… ・もっと人(先生)が欲しい。
実際の話	・学校、教員、教室、教材が欲しい。 ・お金が足りない。 ・自分がもっと勉強したい。	・お金や物の寄付は要らない。(お金は幼稚園に届かない。教材は使える先生がいない。) ・技術ある人の協力が欲しい。
ねらい	双方の考えの矛盾に気付かせたい	

3 第1次：知る段階③（4／8）

（1）ねらい

- ラオスの農村の現状を知り、その裏に潜む課題や、課題同士のつながりに目を向ける。
- 知ったこと、気付いたことを文章やキーワードで表現する。

（2）指導の工夫

- 1枚の写真から予想した答えを、動画を見ながら解決していくことで、児童の興味関心を高める。
- 金銭が要らない自給自足の生活が成り立つのに金銭収入を得ようと努力している農民の姿を見せることで矛盾に気付かせ、課題をつかみやすくする工夫をした。

（3）展開

○主な学習活動	○教師の指導と支援	○評価 ・ 評価方法
○1枚の写真を見て、何をしている写真か考える。 ○動画を見て、答えを知る。	○直接写真のついたワークシートに書き込ませる。 ○簡単な解説をそえ、めあてを知らせる。	
ラオスの農村部のくらしを知ろう		
○動画を見ながら、ラオスの産業と、その生活について知る。 ○モン族がナイトマーケットで売っている商品を見、どんな場所で売っているのかを動画を通して知る。 ○振り返りをする。	○ラオスで買ってきた物を見せながら説明する。 ○モン族の村の様子を説明しながら見せる。 ○動画を通して感じたことをワークシートに記入する。	
○カム族の出身のおじいさんの写真を見て、その生活を知る。 ○おじいさんが海外に行きたい理由を考える。 ○振り返りをする。	○生活の厳しさ、医療制度の悪さを知る。 ○持病の治療のために海外に行かなければならないという、医療の技術の低さを理解させる。 ○村のくらしを知って感じたことをワークシートに記入する。	○おじいさんの話を通し、医療技術の低さを感じることができたか【思】 ・ ワークシート
○ふり返しをし、キーワードカードを書く。	○ワークシートにふり返し感想を書き、特に印象に残ったことを3つキーワードカードに記入する。	○気付いた課題をキーワード化することができたか【技】

(4) 実践記録



導 入

この子どもの写真を見て、気付いたことをワークシートに書き込む。

児童の声

- ・手に何か持っている。 ・泥だらけ ・サンダルがあるのに裸足
- ・後ろにいる人が料理をしていそう ・畑仕事をしている



ワークシート記入中



書き込まれたワークシート

答 え

家族で稲作（田植え）をしに来ている、

展開① ラオスの農村の写真や動画から質問の答えと生活や産業の様子を知る。



ラオスの棚田



ラオス料理「ラープ」



農村での生活用水とそれを飲む乳児



バナナの花



工芸品を作る様子



働く子ども



ナイトマーケットの準備と片づけをする子ども



☆モン族の村の動画で、子どもたちが何をしていたか考える。

児童の声

- ・仕事をしている。 ・子守をしている。 ・物を売っている。

答 え

物を売っている。

⇒ 子どももみんな働いていることと、
その貧しさに気付く。



展開② カム族出身のおじいさんの話を聞く。（10人中7人の子どもが死んだ。足を患っている。）

☆おじいさんが海外に行きたい理由を考える。

児童の声

- ・一度でいいから海外に行きたい。
- ・家族を連れて行ってあげたい。 ・治療したい。

答 え

足の治療をしたいから。

⇒ 医療技術の低さに気付く。

4 第2次：課題をつかみ、解決する段階（5・6／8）

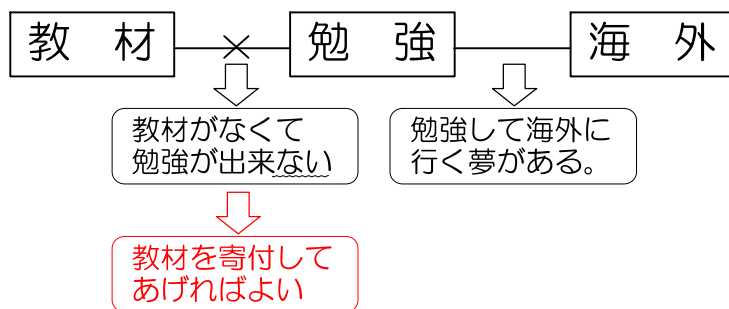
（1）ねらい

- ラオスの社会の現状を知り、その裏に潜む課題や、課題同士のつながりを見つける。
- 気付いたこと、不思議に思ったことを文章にまとめる。

（2）指導の工夫

- キーワードをつなげる、そのつながりを文章で表させることで、そのつながりが課題であるのか、現状説明であるのか区別をつけやすくし、更なる活動（手立て、支援の考案）に役立てられるよう工夫した。
- 今後の展望や支援のあり方を赤で書かせることで、自分たち独自の考えを明確にさせた。
- よりはっきりと思い出せるよう、学習で使った資料を掲示した。

例)



【補 足】

- 授業で見たこと→黒
- 自分たちの発見・考え→赤
- 文末表現で課題か現状説明かの判断をさせる。
- 課題でなくとも未来予想はできることを指示する。

（3）展開

○主な学習活動	○教師の指導と支援	○評価 ・ 評価方法
○学習のめあてを知る。		
ラオスの社会の課題を見つけよう		
○学習の進め方を知る。	○キーワードカードの使い方と、構造図の作り方を知らせる。 ○まとめ方の例を知らせる。	○1つ1つの課題を理解しながらを見つけることができたか【知】 ・社会構造図 ・活動
○グループでキーワードカードをつなげ、社会構想図を作成する。	○グループで話し合いながら、キーワードカードをつなぎ、ラオスの社会構造図を作っていく。	
○出来上がった社会構造図を元に、今後の展望を予想したり、自分たちができる支援を考えたりする。	○社会構造図に赤で今後の展望や、自分たちができる支援を書き込ませる。	○現在の状況から、自分たちとの関わりや今後の展望を考えることができたか【思】 ・社会構造図 ・活動
○完成した社会構造図から読み取ったこと、感じたことを文章にまとめる。	○補助ワークシートを用意し、発表 現行の段落分けをしっかりとできるように、支援する。	○自分たちの考えを文章にまとめることができたか【技】 ・ワークシート

(4) 実践記録

【構造図作成の過程】

①キーワードの分類整理をする。

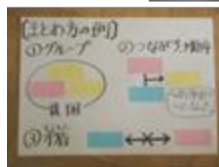
(同じ物をまとめる、似ている物を分別する。)



②自分たちが一番興味をもった課題を1つ決め、
模造紙の中心に貼る。



③中心の課題を元にキーワードを鉛筆でつないだり、
まとめたりしながら、どんな理由でつないだのか
文章で表記させる。



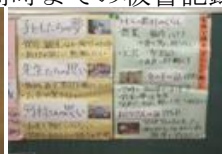
まとめ方の例

つなぐ・説明を書く

○前時までの学習を振り返るよう、

○分からない時は、資料の振り返り

学習資料を掲示する。模造紙は前時までの板書記録



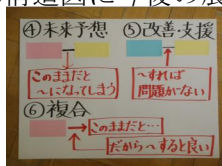
《キーワードカードの色》第1次:ピンク 第2次:黄色 第3次:水色 ※板書記録と同色にしています。

○話し合いをしながら作業をし、出てきた意見は文章化。

○教師は疑問を引き出す発問



④構造図に今後の展望や、支援・改善策など赤色のペンを使って書き込む。



更なるまとめ方の例

赤ペンを使って

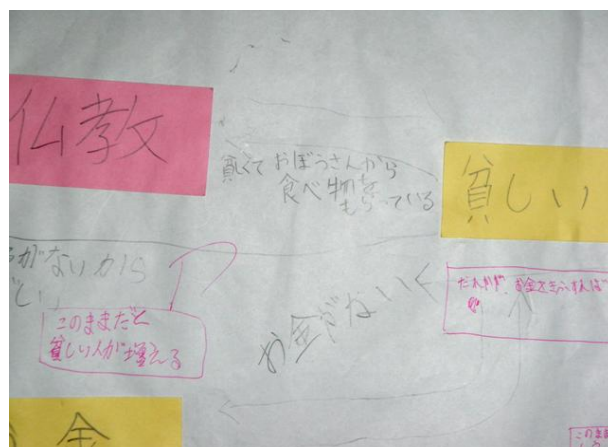
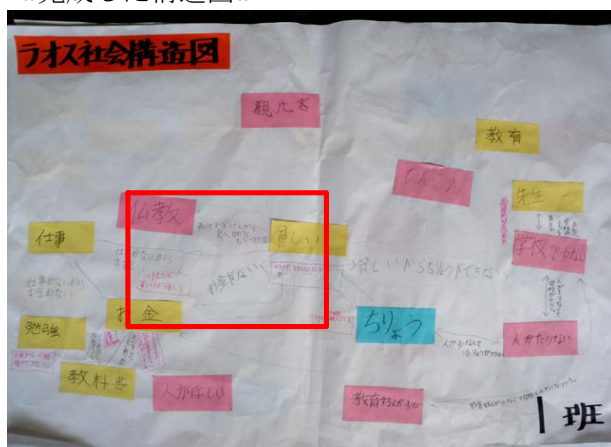
話し合いながら

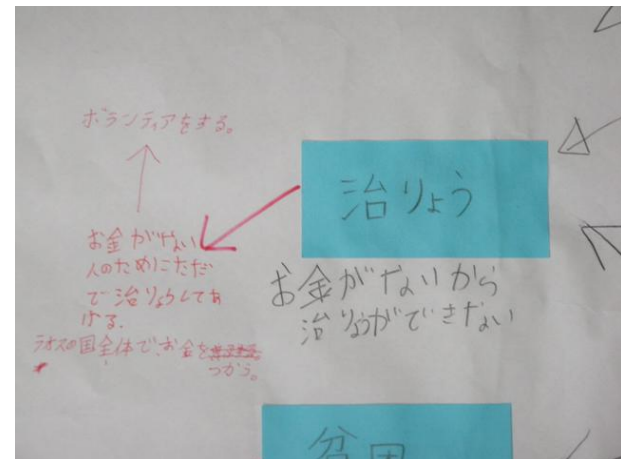
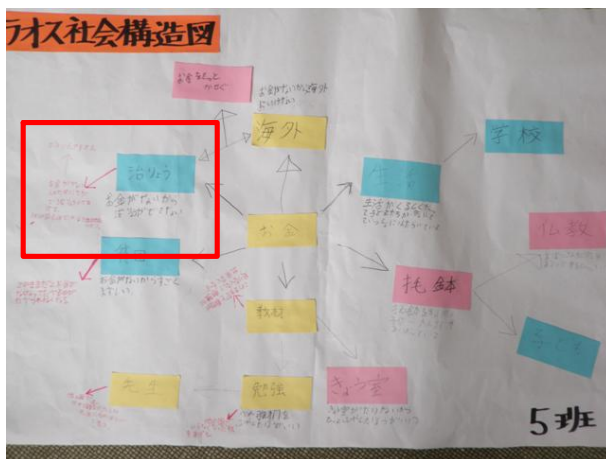
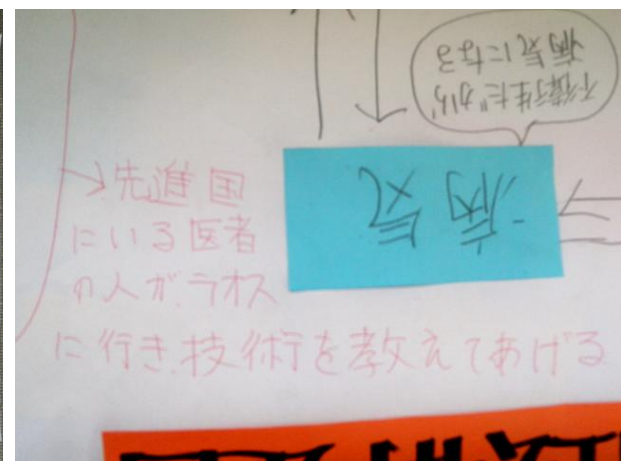
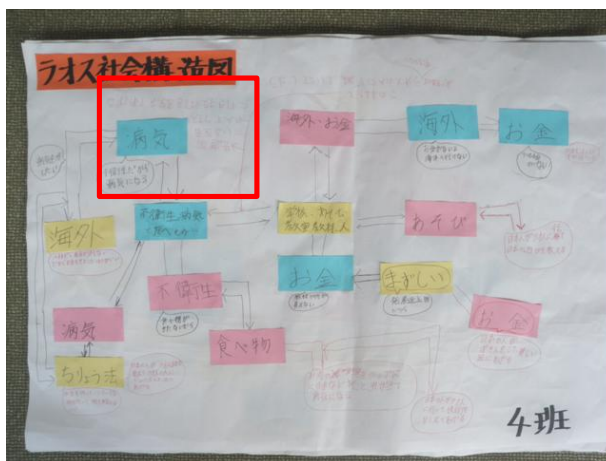
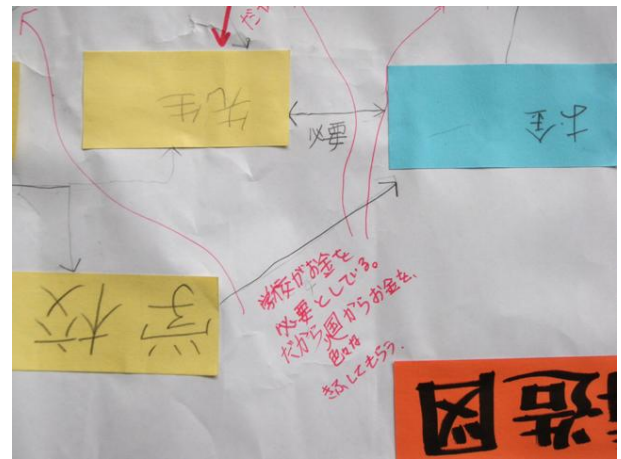
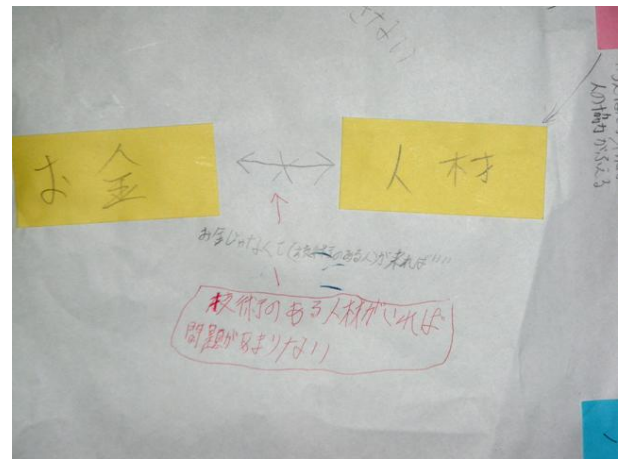
みんなで同時に

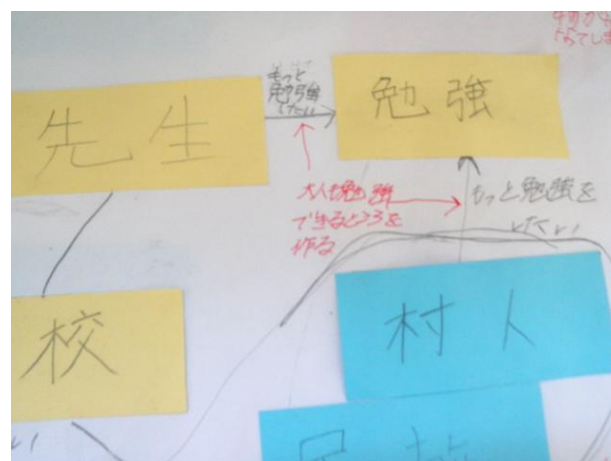
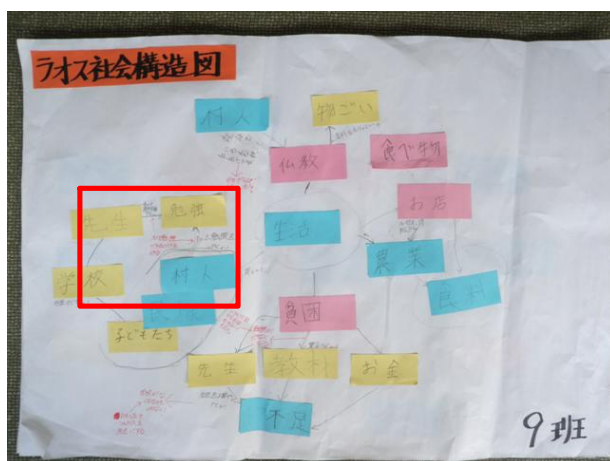
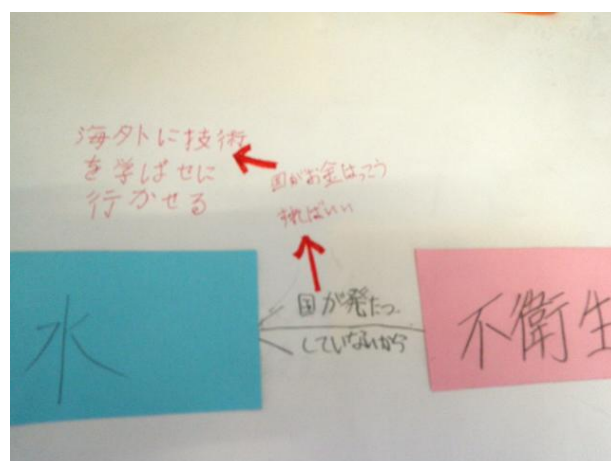
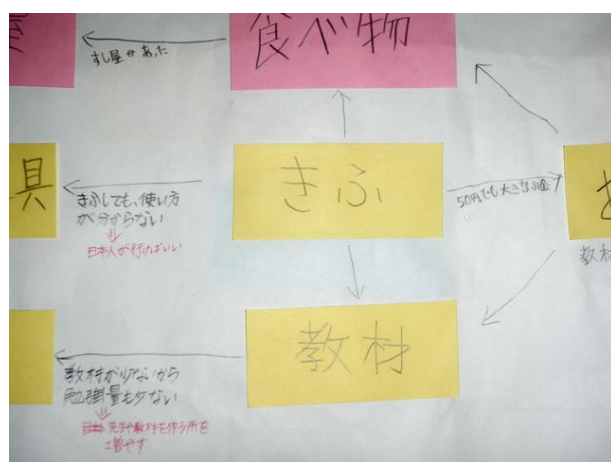
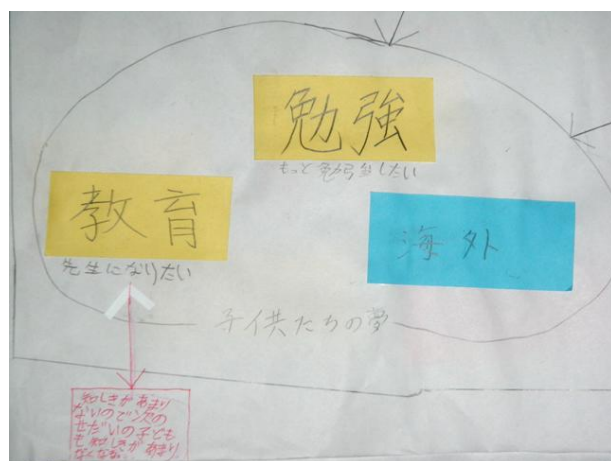
上手なつなげ方を紹介

⑤構造図から読み取れることから、発表原稿を作成する。

《完成した構造図》







5 第3次：まとめ、広げる段階（7・8／8）

（1）ねらい

- グループ発表や全体発表を通し、いろいろな考え方があることを知る。
- 発表を通し、更に調べてみたいことや知りたいことをまとめる。

（2）指導の工夫

- 考えを深めさせるため、グループ内発表をし、同じ資料でも考えが違うことに触れさせ、課題をもたせやすくした。
- どんな活動ができるかを考えさせることで、自分たちの考えをより現実的にさせる工夫をした。

（3）展開

○主な学習活動	○教師の指導と支援	○評価 ・ 評価方法
○学習のめあてを知る。		
発表会をして、考えを広げよう		
○各自、原稿の確認や個人練習に取り組む。	○原稿を書き終えていない児童を中心に支援をする。 ○発表時の注意、ポイントを伝える。	○原稿作成や発表練習に意欲的に取り組むことができたか 【関】 ・活動 ・ワークシート
○グループ発表に取り組む。 ○代表者を選ぶ。	○順序を指定し、発表をさせる。 ○グループで一番よい発表をした児童を選ばせる。 ○発表が終わったグループは机を元に戻して待たせる。	
○全体発表をする。	○発表者を3人ずつ前で待たせる。	
○画用紙に「自分たちでもできること」「さらに学習したいこと」などを記入する。	○構図を元に、自分たちができることを考えさせる。また、分かったことを元に、更に学習したいことを考えさせる。	○学習内容を理解し、自分の意見をもつことができたか【思】 ・ワークシート
○出てきた意見を集約し、今後の学習、または活動を決める。	○画用紙を黒板に貼り、分類・整理をする。 ○児童に意見を出させ、今後の学習や活動でやりたいことを決めさせる。	

(4) 実践記録

①原稿作成作業をする。終わった児童は発表の練習。

②グループ発表。班で1人ずつ発表する。



③班で話し合い、グループの代表者を決める。



④全体発表。構造図を掲示し、その横で発表する。



《児童の発表～発表原稿より～》

(1) 男子児童の発表

ぼくは、ラオスの民族と農業に着目しました。なぜかと言うと、この学習の中で民族と農業のつながりに興味をもったからです。そしてぼくはこの学習の中で、大人から子どもまでが協力して農業をしているということを知り、大変だな、ということを感じました。しかし、農業をしていると、食べ物には困らないことも知りました。

他にもいろいろな民族のことで大変だと思っていることはたくさんありますが、中でも一番困っているのではないかと考えているものがあります。それは学校のことです。なぜかというところの学習の中で、民族の中には言語が違う人や、学校がとても遠い人がいるということを知ったからです。

この学習で学んだことを生かし、貧しい国などに寄付やボランティアをしていきたいです。

(2) 女子児童の発表

私は総合の学習でラオスの貧しさに注目しました。

私はその中で、教育する人やお金が欲しいという話が多かったと思います。またラオスでは、お坊さんが貧しい人にお米や食べ物などをあげたりしています。それから、学校に行かれない子やお金がなくて治療できない人がいることなどを知りました。

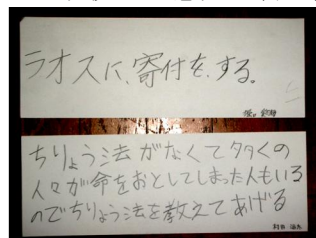
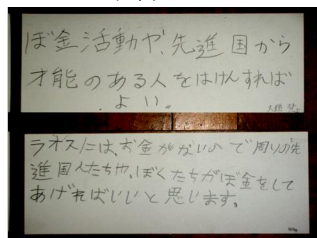
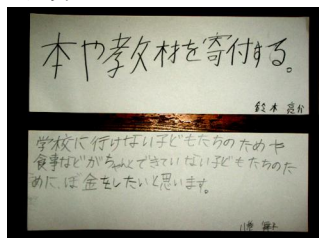
私はその中で、海外からお金などを寄付してもらえればいいと思いました。

(3) 男子児童の発表

ぼくはラオスの病気に興味をもち、なぜ病気になるのかを中心に話し合いました。

ラオスは食べ物が不衛生な上、治療法もないので病気にかかるとそのまま死んでいってしまい、どんどんラオスの人口が減っていってしまうのではないかと思います。そのために、先進国の人がラオスに行って、病気で苦しんでいる人を治療して助けてあげればいいと思いました。

- ⑤「自分たちでもできること」「こんな学習につなげたい」という視点で意見を書く。



⇒ 36名中35名がラオスへの支援を考える。

- ⑥直接支援はできないので、支援団体を各自調べてくる。(第7時終了後、自宅で調べる。)

- ⑦意見を集約し、課題分布図を作る。



- ⑧本当に自分たちでできることを話し合う。

⇒ 募金や寄付をするという意見にまとまる。

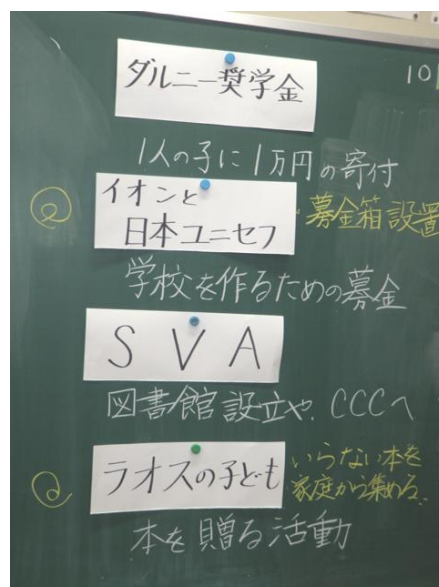
- ⑨児童が調べてきた支援団体とその活動を発表・板書する。



- ⑩実際に自分たちがするならば、どんな活動ができるか、どんな活動をしたいかを具体的に話し合う。

児童の声

- イオンモールが近くにあるので、行った時に募金をする。
- ラオスの子どもたちは本を読むことが好きだということを学習したので、本を贈ってあげたい。
- 知らない本を家庭から集めればラオスの子どもたちの団体に本を贈ってもらうことができる。
- SVAの活動を通して、ラオスの子どもたちのために図書館を作ってあげたい。



- ⑪授業以外でも実際にボランティアとして活動できることを知り、活動の意志を尋ねる。

⇒ イオンと日本ユニセフ協会が協力して開催する「学校建設支援募金」に13名と、NGO団体ラオスの子どもが主催する図書の支援に11名の希望者が出る。(重複を含む)

Ⅲ 今後の学習について

10月27日（火）、今回の学習を受けて、実際にどのように活動するかを話し合った。

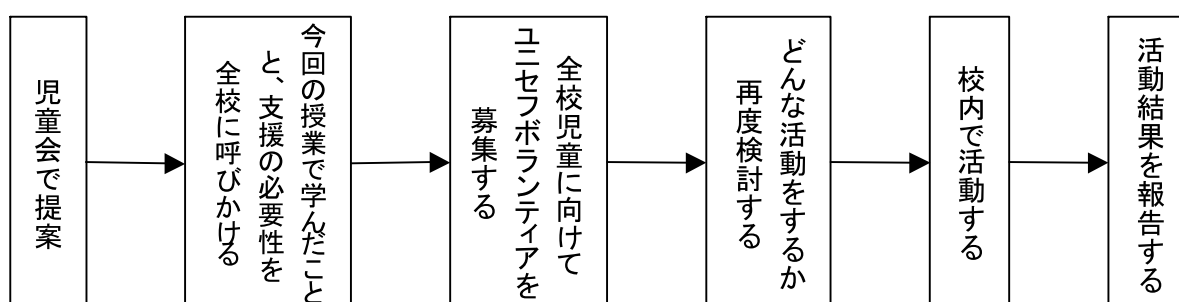
その中で、上記の2つの支援を行うことが決まり、今後の活動の具体的な計画を立てた。

また、今回のこの学習は6年2組だけでなく、6年1組も課題解決の同時進行で学習を進めてきた。しかし、ボランティア活動は学年として取り組もうと考えていたため、第8時は行わず、2組の活動を紹介した上で、2組が選んだボランティアの活動に1組も参加してもらう形態をとることにした。

そこで、6年1組の児童にもボランティアの活動の意志を尋ねたところ、2組以上に多い人数の児童の希望が得られ、2組と一緒に活動を進めていくことにした。

1 イオンと日本ユニセフ協会の共催する「学校建設支援募金」

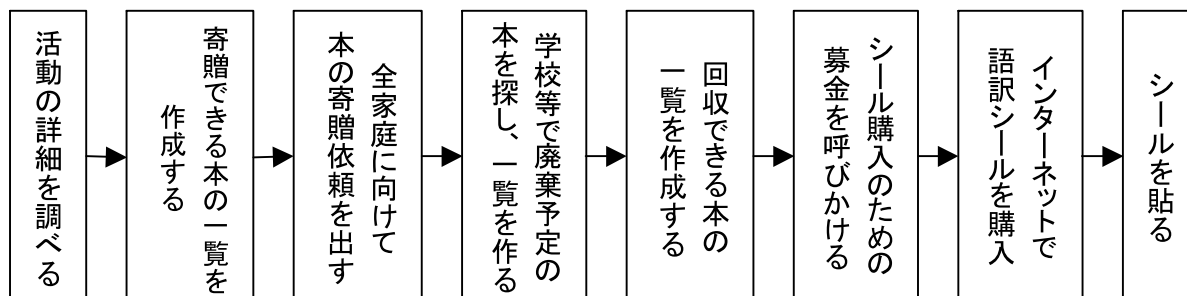
活動の流れは以下の通りである。



本校は以前ユニセフ募金を行っていたのだが、昨年度は行われず、その流れが途絶えようとしている。そこで、今回はこの授業を通して学んだことを紹介した上で、以前のようにユニセフ募金の活動に取り組むよう話し合われた。また、以前から本校は全校に向けてユニセフボランティアを募って活動しているため、その流れを知っている児童が中心に立って、全校規模での活動を進めていくこととなった。

まず、来月11月9日（月）に児童会の話し合いがあるため、その場で提案し、実施時期・実施方法などを検討する予定である。

2 NGO団体「ラオスのこども」による本の寄贈



まずは団体の活動について詳しく調べることから始める。その結果を受けて、寄贈できる本の種類を調べ、その本を寄付してもらうよう、全家庭に手紙で通知する。また、学校で廃棄予定の図書を調べ、寄贈できるかどうかを確認する。その後、シール購入のためのお金も募金で集め、放課後などの時間を利用してシール貼りを行う予定である。

この活動は6年生のボランティアのみで行う予定である。

IV まとめ

1 成果と課題

【成 果】

- ◎教師が予想していた以上に、課題に対して適切な改善策を考えるグループが多かった。
- ◎教材に対する意欲が高かったためか、児童が互いに意見出し合い、真剣に考える姿が見られ、構造図に見られる以上に内容のある話し合いを進めることが出来た。
- ◎実際に支援活動をしたいという児童が多数表れ、実際の活動に移る計画を立てることが出来た。今後の自主的な活動に期待している。
- ◎中には支援団体を通さずに、自分たちで直接支援したいという児童も現れ、支援活動に対する関心を高めることができた。
- ◎少ない情報量の中、授業で聞いた話や、自分たちのもっている知識を活用しながらキーワードをつなぎ、どのグループも分かりやすい社会構造図を作ることができた。
- ◎写真や動画、現地の工芸品や図書など、資料が豊富であったためか、児童の関心・意欲が非常に高く、児童たちが学習を楽しみにしている様子がはっきりとうかがわれた。
- ◎ラオスのマイナス面だけでなく、プラス面も話したため、行ってみたいという児童も多数いた。

【課 題】

- ・普段なじみのない言葉（托鉢、教材など）が多く使われていたため、意味の捉え違いをしている児童がおり、語句説明の少なさが感じられた。
- ・キーワードごとのつながりを単語でしか説明できないグループがあり、事前に支援策をうつ必要性を感じた。
- ・第2次の社会構造図作りや第3次の発表原稿作りの時間が十分でなかったため、時間をもう少し取ればもっと内容のある発表ができたように感じられた。
- ・自分たちに出来ることを考えた際、「募金する」という言葉が目立った。募金によって、どんなことが出来るのか、その内容まで考え記述させることで、募金の意義をより深く考えさせるべきであった。

2 今回の活動を通して…

私が教師海外研修において感じたことは「ラオスの豊かさ」。後発開発途上国であると聞いていたため、もっと貧しくもっと大変な暮らしを余儀なくされているものと思っていた。

しかし、実際に私が初めて見たのは都市部の豊かさ。日本と変わらない最新の機器に囲まれた生活を見て驚いた。そのため、後発開発途上国と呼ばれる理由を理解することができなかった。ただ、ラオスのJICA事務所で聞いた話によると、ラオス国内でも2極化が進んでいるため、その貧しさは農村部において見られるという。

本当のラオスを見てみたく、行った農村部。その住居や村の様子から、確かに貧しい暮らしをしていることが分かった。しかし、そこに住む人々の顔は決してくもっておらず、話を聞いてみると、家族で協力して生活したり、家族との時間が一番大切だと思っていたりするラオス人の考えに心の豊かさを感じた。

そのようなラオスの現状を見た時に、私は「この国に支援する必要があるのだろうか」ということを感じてしまった。

また、ラオスの世界遺産都市であるルアンパバンとその近郊では、仏教徒の托鉢に便乗し、食事を乞う子どもたちと、その後ろで指示を出す親の姿や、少数民族の村で赤ん坊を抱えながら商品を売るために同じ言葉を連呼する子どもたちの姿を見た。そのような貧しさが出来てきたのは貨幣経済が流入してきた影響ではないかと考えられるという。

そのことを考えると、グローバル化が本当に必要なのか、という疑問が起こってきた。

私の中で「途上国」＝「貧しい」＝「お金がない」「生活が苦しい」という関係が成り立っていたようで、後発開発途上国と呼ばれるラオスに対し、偏見を抱いていたのは確かである。しかしそれは間違いであるということを痛感させられた。確かに私は現在の日本に住んで仕事をし、金を稼いで、生活したり、自分の楽しみを得たりするという今の生活に満足している。しかし、その一方でラオス人も、貨幣がなくとも食料があり、物がなくとも家族仲良く、豊かな心を育み、やはりその生活を満喫しているようである。つまり、貨幣の有無が幸せの基準にはならない、ということを今回強く感じさせられた。

そうなると、金銭を与えることがラオスにとって最善の方法でないことは明確である。

そこで、本当にラオスに必要なことは何かを考えた結果、出てきたことが「教育」と「医療」であった。私の出した結論、それはラオスに物質的な豊かさをもたらすことより、人間の未来を育むことが最重要課題である、ということであった。

そのため、私は目の前にいる児童に私が発見したことを伝えたいと思い、今回の学習を計画した。

まず、都市部の紹介から始めることで、「途上国」＝「貧しい」という私も抱いていた偏見を無くそうと考えた。しかし、その一方で課題も残っていることは児童の心に刻む努力をしていった。

次に自分たちと同年代の子たちの姿を見せ、その子たちが自分たちと同じように生き生きとしている姿を見せ、物はなくても年齢や男女の枠を超えて楽しく遊ぶ子どもたちの心の豊かさを印象付けると共に、大人たちの願望から、教育環境の悪さを伝えた。

さらに、「医療」と結びつけるため、医療の発達していない村の様子を見せた。ここでは暖かな家族の姿をたくさん見せ、心の豊かさを印象付けたり、豊富な食料があるのを見せ、食べる面では生活に困っていないといったことに気付かせたりした。また、農村部のおじいさんの話から、医療技術の向上の必要性を感じさせた。

その授業を経て作られた、「ラオス社会構造図」。子どもたちの考えの中には教育と医療分野への支援の必要性がたくさん記入されており、自分が感じたことを児童たちも少しではあるが感じてくれたことを知り、本当にうれしく思った。また、その内容も金銭的援助だけでなく、「お金よりも経験ある人の協力がほしい」と言った青年海外協力隊員の一言を覚えていたのか、技術援助の必要性や現地の人々を育てるための施設の設立の必要性をうたう意見もたくさん見られ、児童たちの深い考えに感心させられたのを覚えている。そして、こういったことへの気付きこそがグローバル教育に求められている部分ではないかと感じることもできた。

また、単元の最後にボランティア活動参加への意志を聞いたところ、多数の希望者が出たことには本当に驚いた。今まで高学年の性質なのか、少し冷めたところが見えてきた児童たちだったが、これほど多くの参加が得られるとは考えていなかった。

これも全て教師海外研修における「生きた経験」が子どもたちの心を動かしたのだと確信している。企画運営して下さった団体、及び関係者に心より感謝申し上げたい。また、今後児童たちが海

外支援、またはボランティアなどに積極的に関わってくれることを、心より願っている。